

徳島県仏教会 県仏だより

発行日 平成26年1月1日
 発行者 岡部 義典
 発行所
 一般社団法人 徳島県仏教会
 〒770-0908
 徳島市眉山町大滝山7
 常慶院（事務局）
 TEL088-653-1030
 FAX088-624-2220

第2号

ため、社会教育活動や研究会の開催、関係団体との相互連絡等の事業を行います。今年度は、第四十二回全日本仏教徒会議和歌山・高野山大会及び第二回都道府県仏教会代議員会議（十月十六日・十七日）と三好仏教会主催の講演会（十一月二十五日）への出席を予定しております。残念ながら、台風の

新年のごあいさつ

一般社団法人 徳島県仏教会
 代表理事・理事長 岡部 義典



新しい年を迎え、会員各位には益々ご健勝にて、檀信徒教化にご
 精進のこととお慶び申
 上げます。

昨年中には、「県仏だより」創刊号で県仏教会の取り組みとして掲げさせていただいた（一）「定款」の送付（二）「県仏だより」の発行（三）「徳島県仏教会」の輪袈裟の配布（四）「予算書」の配布を行うことができました。特に、「県仏だより」は、広報委員会諸氏のご尽力で今回第2号の発行となりました。会員の皆様方のご協力に感謝いたします。

さて、県仏教会は、定款第三条で「仏教精神を基調とし、地域住民と連携し、団結と協力により仏教文化の宣揚と社会浄化と文化の向上に寄与することを目的とする」旨をうたっています。この目的を達成する

影響で全日本仏教徒会議には参加できませんでした。「大会宣言文」を掲載させていただきます。三好仏教会主催の講演会は、真言系と浄土系が隔年で講師を務めるということで、第二回目は今年に浄土真宗本願寺派蓮光寺（吉野川市）住職で布教使である竹條教悟様のご講演でした。約二百五十人の檀信徒の皆さんが楽しく聞いておられました。講演会終了後、三好仏教会の役員方と意見交換を持ち、托鉢行では二十五名が大供養をされたとお話も聞かせていただきました。（参考にした

後で紹介させていただきますように、各单位仏教会で自主的に取り組みがされています。ただ、こうした取り組みを、県仏教会が事前に把握し情報を提供することができなかつたことを残念に思います。今後は「県仏だより」でお知らせできると思えます。

寒さが一段と厳しくなると思えますので、ご法体ご自愛ください。会員の皆様方からのご意見・ご要望やご質問がありましたらお知らせください。



平和記念塔パゴダ（眉山山頂）

各単位仏教会だより

美馬西部仏教会 福島県内で法要



美馬西部仏教会（栗飯原興禅会長・つるぎ町地藏寺住職）では、昨年六月十七日、福島県広野町の修行院（真言宗智山派）を訪れ、東日本大震災犠牲者追悼と被災地復興の法要を修しました。今回の法要は、美馬西部仏教会のつるぎ町多聞寺住職白川密峰師と修行院住職岡田文明師が、京都の種智院大学の同窓生という縁で勤められ、当日は美馬西部

仏教会所属寺院の住職と修行院の檀家など、約五十名が参加いたしました。

修行院は、震災の津波で檀家三名が犠牲となり、本堂も床上浸水など多大な被害を被り、住職もいわき市の借り上げ住宅から、ほぼ毎日お寺に通っているという状況です。

美馬西部仏教会では、所属寺院から集めた義援金十万円を岡田住職に手渡ししました。

三好仏教会が講演会を開催



三好仏教会（中村誠山会長・池田町光明寺住職）では、十一月二十五日、三好市阿波池田総合体育館におきまして仏教講演会を開催いたしました。演題は「人として重たき者」で、講師は吉野川市川島町の浄土真宗本願寺派蓮光寺住職竹條教悟師でありました。最近、自然葬とか散骨葬儀といった、親の葬儀でも僧侶を呼んで葬儀することなく、ご遺骨を山や

海にばらまいて、お墓も造らないことが増えている現状世相を嘆き、仏法の四恩の教えを中心に御恩の重さ大切さ等につき、途中ユーモアや笑いを交えながら、たいへん有意義な講演内容で、聴衆者（約二百五十名）の方々も、ありがたいお話でしたと感激しておりました。講演会終了後は、講演会の反省と親睦をかねて懇親会を開催。

また、県仏教会岡部理事長も出席し、県仏の趣旨や、今後の活動についてお話をさせて頂きました。三好仏教会の今後の活動についても活発に議論されました。

県仏委員会だより

奉納阿波踊り

平和の塔委員会

昨年八月十五日、平和記念塔パゴダの前の広場で無双連による奉納阿波踊りが行われました。阿波踊りに先立って、パゴダ三階の仏舍利・戦没者位牌の前において戦没者追悼法要が行われ、ビルマ戦線に従軍した経験のある中国義さんをはじめ県ビルマ会の会員、戦没者遺族、無双連連長ほか関係者が参列されました。法要の後、林郁夫さんによる鎮魂のトランペット吹奏が行われ、正午に合わせて全員が黙とうを捧げました。その後、約百人が見守る中、パゴダ前の広場において、無双連の四十人による慰霊のための奉納阿波踊りが行われ、同時に参列者が読経を行い戦没者の追悼を行いました。徳島において六日連続酷暑日、九日連続熱帯夜という灼熱の中で行われた阿波踊りでありましたが、無事終えることができました。

戦没者英霊過去帳慰霊法要

平和の塔委員会

昨年九月二十六日、平和記念塔パゴダにおいて戦没者英霊過去帳慰霊法要が厳修され、県ビルマ会を中心とした戦没者遺族の方々、

約八十名が参列されました。パゴダ一階ホールに設けられた祭壇に戦没者過去帳・大東亜戦没者並びに殉国英霊の位牌を安置し、初めに県仏岡部理事長による洒水・唵（たっしん・願文）の後、来賓として徳島県知事、徳島市長、徳島県遺族会、英霊にこたえる会徳島県本部の四者から慰霊の言葉をいただき、その後岡部理事長を導師として七名の各宗僧侶による読経が行われました。参列者は読経に合わせて順に焼香を行い、戦没者の供養を祈りました。

法要終了後は徳島市寺町の東宗院住職平尾純行僧正による講演が行われました。

「県仏だより」第2号発行

広報委員会

広報委員会では、創刊号に引き続き、第2号を平成二十六年新年号として発行いたしました。発行にあたり、編集委員会を九月九日と十一月二十七日に、小松島市堀越寺にて開催し、創刊号の反省と、次号の企画や構成を活発に議論しました。今後も、今回同様、各単位仏教会や県仏委員会からの報告を掲載し、また次回以降に各単位仏教会の役員名簿を掲載するよう計画しています。なお、当広報誌に対するご意見ご要望があれば、事務局にお伝えください。

全日本仏教会関連情報

第四十二回全日本仏教徒会議

和歌山・高野山大会 大会宣言文

第四十二回全日本仏教徒会議 和歌山・高野山大会は、二〇一三年（平成二十五年）十月十六日〜十七日に仏教各宗派からのべ八百人が参加して開催され、大会宣言を採択して閉会しました。

徳島県仏教会は、主催団体の一つである全日本仏教会に加盟しています。徳島県仏教会の会員である各寺院等におかれましては、宣言文の内容をご確認の上、今後の活動にあたっての指針としていただければと存じます。

* * * * *

私達のいのちは自然環境と密接不可分の関係にあります。私達人間の心が垢ればそれに従い環境は垢れ、逆に環境が調和を保てば、それに従い私達の心も落ち着き、朗らかになつてまいります。

第二次大戦以後、驚異的な科学技術の進歩により私達は物質的に豊かな資源を享受してきました。しかしその原資は地球上の有限な資源であるにもかかわらずそれらを湯水の如く消費し、枯渇の危機を招き、あまつさえ近未来には海底資源まで触手を延ばそうとしています。

最近発表されたIPCC（気候変動に関する政府間パネル）報告書でも、地球温暖化の進行は人為的原因によることが強調されています。自然環境にも危機的な状況をもたらし、オゾン層の破壊、海面の上昇、干魃、ゲリラ豪雨等により世界的に甚大な被害を蒙っているのは、その顕著な例であります。また急速な工業化による深

刻な大気汚染が常態化し、人々の健康を蝕む事態をも招いています。

私達は、東日本大震災という未曾有の大惨事を経験いたしました。とりわけ原子力発電所の放射能汚染の影響もあり、被災地の復旧は遅々として進まず、大自然の脅威の前に如何に人間が無力かを痛感させられました。この大惨事は日頃の生活を根底から見直し、物質的に豊かな生活よりもさらに大切なものがあることに気づかせてくれる、自然からの警告であります。石油、石炭などの化石燃料も、過去に存在したいのちが悠久の時を経て私達に恩恵を与えてくれております。しかしそれらは有限です。私達の時代だけで枯渇させることなく、未来にも残し伝えねばなりません。

便利で快適な生活を求めるのも根源的な生命力としての欲であります。しかしその欲を我欲にとどめず、質を変え他の命を生かす、大切にするために使う利他の行動が現代に求められています。

私達は自然から大きな恩恵を受けているのも事実であります。古来より日本人は森羅万象の中に聖なるものを見出し、「神・仏」として崇拜し、保護し、共存してきました。その智慧を共有する仏教各派が積尊の教えの下に一致団結し、叡智の科学とも手を取り合い、日本ひいては世界中にその思想を発信し、さらなる環境破壊を阻止すべく自然との共生の実現を誓い大会宣言と致します。

県仏事務局からのお知らせ

県仏教会の慶弔規定がありますので、左記に該当することがございましたら、事務局までご連絡ください。

慶事 一 御住職の結婚（住職に限る）

二 本堂の新築及び改築

弔事 一 御住職の遷化（住職に限る）